

広島大学大学院教育学研究科

共同研究プロジェクト 報告書

(第18巻)

令和2年3月

広島大学大学院教育学研究科

巻 頭 言

本報告書は、部局長裁量経費による令和元年度共同研究プロジェクトの成果報告書である。平成14年度に『リサーチ・オフィス共同研究プロジェクト報告書』第1巻が発行されて以来、継続して刊行されてきた報告書の18巻目にあたる。

広島大学では平成12年度に教育学研究科・教育学部と学校教育研究科・学校教育学部が統合・再編され、新しい教育学研究科・教育学部が誕生した。これを機にリサーチ・オフィスが設置され、研究科として取り組むべき研究課題を指定し、共同研究の推進・加速を支援してきた。

新研究科・学部誕生の二年後には大学は法人化され、中期目標が設定された。共同研究プロジェクトは、それらを達成するための枠組み・制度として機能し、組織としての研究の企画・実施に成果をあげてきた。また、教育をめぐる状況の変化に対応しながら、随時新しい研究課題に取り組んできたことも、本制度の特徴となっている。

このような本制度の経緯からわかるように、本報告書は、本研究科が直面する問題意識とその時々のもつ構成員の答えが投影された時代の鏡である。研究科の「紀要」を研究者個人またはグループの学術的な成果物として捉えるならば、本「報告書」は研究科が組織的に担い果たしてきた社会的責任を対外的に説明する年鑑として特徴づけられるだろう。過去18巻の目次を眺めてみても、その時代その時代で懸命に研究科の在り方を模索してきた先達の思いと息遣いが伝わってくる。

このようなミッションを帯びた共同研究プロジェクトだが、令和元年度のプロジェクト経費は、厳しい予算状況にもかかわらず、昨年度同様の額が措置された。本制度の変わらぬ意義をお認めいただき、限られた部局長裁量経費のなかから予算を確保していただいた研究科長をはじめ各位に改めて感謝申し上げます。

1. 研究課題の公募と研究カテゴリー

本年度も、共同研究プロジェクトとして実施したい研究課題が指定された。特に「平成30年度 教育学部・教育学研究科 中期目標・中期計画」「2 研究に関する目標」に基づいて、次の研究を優先することが明示された。

- (1) 異分野・複数ユニットの融合による独創的な研究
- (2) 教員及び学生の社会貢献や国際交流の促進策に関する研究
- (3) INEI との連携強化や共同研究に発展しうる研究
- (4) その他、教育学研究科として国内外に提案できる研究

今年度の手続き上の特徴は、大きく2点ある。

第1に、昨年度同様に研究推進委員会で採否の原案が作成された点である。研究推進委員会では、昨年度の手続きと規準を踏まえて、①募集カテゴリーの目的に合致しているか、②中長期的に本研究科の研究水準及び研究の成果等をあげることに寄与するか、の二規準に基づいて審査を行った。また、評価点と特記事項を参考にして、さらなる増額や減額を検討した。このように審査のプロセスに構成員が参画することは、研究科の在り方を議論する場を創出するうえでも意義があると思われる。

第2に、大型研究プロジェクトへの発展をこれまで以上に意識した点である。申請者には、過去に同様のテーマで申請した研究課題について実績報告を求めるとともに、来年度以降の科研費の大型種目または他の大型外部資金等への応募を必須とした。本研究科を取り巻く課題を受けて、教育・研究・社会貢献の在り方を模索し、研究課題を設定し、ソリューションを見出し、その成果を社会に発信・実装していくプロジェクト研究は、ますますその地位が高まっていくのではないかと。

2. 採択された研究課題

本年度は、以下9件の研究課題が採択された。いずれも報告書は提出済みである。

課題番号	研究代表者	研究課題名	カテゴリー
1	服巻 豊	身体動作を介したストレスマネジメント教育プログラムの心理的作用と身体生理的作用との関連の検証	(1)
2	神原 利宗	音象徴語の音と意味の関係を探る言語心理学研究	(1)
3	難波 修史	手を差し伸べるのは誰か －情動認知に対する領域横断的アプローチ－	(1)
4	深澤 清治	グローバル時代に求められる次世代教員養成プログラムの開発 ー日米協働による「体験型海外教育実地研究」の教育的効果の評価を通してー	(2)
5	齊藤 一彦	日本型教育の海外展開方策モデル創出 ー広島型教科横断的国際教育協力プラットフォームの構築ー	(2)
6	草原 和博	INEI 加盟大学と連携した授業研究・平和教育セミナー(1) ー「PELSTE2020」の成果報告ー	(3)
7	木村 博一	初等教育との連携による幼稚園教員養成での個別最適な学びの実現にむけた調査開発研究	(4)
8	久井 英輔	CLCs (Community Learning Centers) の活動実態とその制度環境的／地域特性的要因 ー広島県における質問紙調査に基づいた探索的研究ー	(4)
9	森田 愛子	ポートフォリオ評価を軸とした教職課程の構造化(2) ー実習系科目およびフィールドワーク等による「教育観の形成」の検討と効果検証ー	(4)

※研究課題名は最終提出時のものである

3. 研究の実施と報告

採択決定後の実質8か月、短期間ではあるが、各研究代表者を中心に精力的に続けられた研究の成果をまとめたものが本報告書である。なお、平成26年度以降、冊子体での配付を取り止め、広島大学機関リポジトリに登録して広く公開し、自由にダウンロードできるようにした。利用者が利用しやすいように、教育学研究科ホームページからもリポジトリに直接アクセスできるようにしている。

研究とは、「社会的存在」である。それ自体として独立して存立しているわけではない。研究は、社会との関わりにおいて、具体的には、学生や学習者、市民との関わりにおいて存在する。とりわけ教育学研究科の研究はそうであろう。私たち研究者は、自分は何のために・何をしているかを絶えず自己省察した上で、研究はもちろん教育や社会貢献に従事していく責任がある。その意味において、本報告書が広く読まれ、教育学研究科の問題意識と取組をご批評いただけることを願っている。

なお、教育学研究科としての本書の刊行は、本年度で最後となった。新体制下においても、本制度と同様の共同研究の支援体制が立ち上がることを強く期待したい。

令和2年3月

広島大学大学院教育学研究科
研究・国際交流部会長
草原 和博

目 次

1. 身体動作を介したストレスマネジメント教育プログラムの
心理的作用と身体生理的作用との関連の検証
..... 服巻 豊 (1)
2. 音象徴語の音と意味の関係を探る言語心理学研究
..... 神原 利宗 (11)
3. 手を差し伸べるのは誰か
ー情動認知に対する領域横断的アプローチー
..... 難波 修史 (17)
4. グローバル時代に求められる次世代教員養成プログラムの開発
ー日米協働による「体験型海外教育実地研究」の教育的効果の評価を通してー
..... 深澤 清治 (23)
5. 日本型教育の海外展開方策モデル創出
ー広島型教科横断的国際教育協力プラットフォームの構築ー
..... 齊藤 一彦 (29)
6. INEI 加盟大学と連携した授業研究・平和教育セミナー (1)
ー「PELSTE2020」の成果報告ー
..... 草原 和博 (39)
7. 初等教育との連携による幼稚園教員養成での個別最適な学びの
実現にむけた調査開発研究
..... 木村 博一 (49)
8. CLCs (Community Learning Centers) の活動実態と
その制度環境的／地域特性的要因
ー広島県における質問紙調査に基づいた探索的研究ー
..... 久井 英輔 (59)
9. ポートフォリオ評価を軸とした教職課程の構造化 (2)
ー実習系科目およびフィールドワーク等による「教育観の形成」の検討と効果検証ー
..... 森田 愛子 (69)

発行者：広島大学大学院教育学研究科
(〒739-8524)

東広島市鏡山1丁目1-1

発行日：令和2年3月19日

印刷所：広島市西区商工センター7-5-33

株式会社 ニシキプリント

電話 (082) 277-6954